

## 2014年10月実績概要（メモ）

（2014. 11. 20）

### 1. 生産動向

イ) エチレン 553, 200トン

前月比                    + 12. 4% (+ 61, 000トン)  
前年同月比                ▲ 4. 5% (▲ 26, 000トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 3. 3%	-
定修要因等	+ 10. 7%	▲ 5. 7%
能力増減	-	▲ 5. 2%
稼働率変動	▲ 1. 6%	+ 6. 4%
生産増減率	+ 12. 4%	▲ 4. 5%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月 93. 6%→当月 92. 4%←前年同月 87. 0%  
定修プラント：前月 2社2プラント→当月 2社2プラント←前年同月 1社1プラント  
2014年1～10月累計生産量 5,429. 7千ト 前年同期比▲0. 8%

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数増と合わせて、稼働率要因や定修規模差から HD、PS、SM、EO、EG、AN、ベンゼン、キシレンなどの11品目でプラス。PP、塩ビモノマー、SBR、BRなどの6品目はマイナスとなった。

前年比では、稼働率要因や定修規模差から HD、PS、SM、EGなどの6品目はプラス。主に定修規模差から LD、PP、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、AN、SBR、BR、ベンゼン、キシレンなどの11品目はマイナスとなった。

### 2. 樹脂の生産・出荷状況（LD、HD、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、日数増加や稼働率要因から HD、PSはプラス。LD、PPは稼働率要因や定修規模差からマイナスとなった。

前年比では、HD、PSは稼働率要因からプラス。LD、PPは稼働率要因や定修規模差からマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比は、営業日数の増加もあり LDはプラスとなった。HD、PPでは射出成形分野の出荷減、PSは前月の出荷量が比較的高めであったこともあり当月はマイナスとなった。

前年比は、PEでは輸入品の増加影響がみられており、HDではフィルム分野の出荷が減少したほか、LDでは全般的に出荷が減少しマイナスとなった。PPでは射出成形分野、フィルム分野等の出荷減、PSは雑貨・産業用分野等の出荷減少からそれぞれでマイナスとなった。

ハ) 輸出

アジア地域の需要については大きな変化はなく、当月は中国の国慶節休暇の影響もあり HD、PPでマイナス。LDのみがプラスとなった。

前年比では、HD、PPはマイナス、LD、PSはプラスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、PPで減少し、HD、PSは若干増加した。在庫率(季節調整済)ではLD、PPは低下、HDは上昇、PSは前月並みとなった。在庫水準としては、LD、PPはやや高め、HD、PSはほぼ適正水準となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		9月末	10月末
LD	▲ 29, 600	3. 6	3. 3
HD	+ 9, 600	2. 5	2. 6
PP	▲ 11, 900	2. 9	2. 8
PS	+ 1, 100	1. 1	1. 1

以上